

## §2.5 3次元座標空間の点とベクトル

実数の3項組の全体  $\mathbf{R}^3$  は、 $\mathbf{R}^3$  の要素どうしの加法および実数と  $\mathbf{R}^3$  の要素との乗法を付け加えることによって3次元実ベクトル空間になりました. 実数  $a$  と  $b$  と  $c$  との3項組  $(a, b, c)$  は、3次元座標空間の点と考えることも3次元実ベクトルと考えることもできます. 3次元座標空間の点  $P$  の座標  $(a, b, c)$  を3次元実ベクトルと考えるとき、 $P$  の位置ベクトルといいます.

**定義** 各実数  $a, b, c$  について、3次元座標空間  $\mathbf{R}^3$  の点  $P = (a, b, c)$  に対して3次元実ベクトル  $(a, b, c)$  を点  $P$  の位置ベクトルという.

この定義より、実数  $a_1, a_2, a_3$  に対して、3次元座標空間  $\mathbf{R}^3$  の点  $A = (a_1, a_2, a_3)$  の位置ベクトルを  $\mathbf{a}$  とおくと、 $\mathbf{a} = (a_1, a_2, a_3)$  です.

3次元座標空間  $\mathbf{R}^3$  の任意の点  $P$  に対して  $P$  の位置ベクトルが唯一つ定まり、任意のベクトル  $\mathbf{p}$  に対して  $\mathbf{p}$  を位置ベクトルとする点が唯一つ定まります. つまり3次元座標空間  $\mathbf{R}^3$  の点と3次元実ベクトルとは過不足なく一対一に対応します.

**定理 2.5.1** 3次元座標空間  $\mathbf{R}^3$  の点  $A$  の位置ベクトルを  $\mathbf{a}$  とおき点  $B$  の位置ベクトルを  $\mathbf{b}$  とおくと、

$$A = B \iff \mathbf{a} = \mathbf{b} .$$

**証明** 実数  $a_1, a_2, a_3, b_1, b_2, b_3$  について、 $A = (a_1, a_2, a_3)$  ,  $B = (b_1, b_2, b_3)$  とおくと、 $\mathbf{a} = (a_1, a_2, a_3)$  ,  $\mathbf{b} = (b_1, b_2, b_3)$  なので、

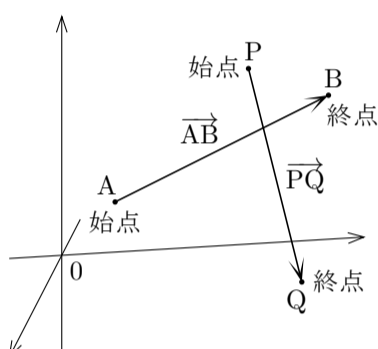
$$A = B \iff (a_1, a_2, a_3) = (b_1, b_2, b_3) \iff \mathbf{a} = \mathbf{b} .$$

(証明終り)

**定義** 3次元座標空間  $\mathbf{R}^3$  の点  $A, B$  の各々の位置ベクトルを  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  とおく. 点  $A, B$  に対して、3次元実ベクトル空間  $\mathbf{R}^3$  のベクトル  $\overrightarrow{AB}$  を次のように定義する:

$$\overrightarrow{AB} = \mathbf{b} - \mathbf{a} .$$

この定義により、3次元座標空間  $\mathbf{R}^3$  の各点  $A, B$  に対して3次元実ベクトル空間  $\mathbf{R}^3$  のベクトル  $\overrightarrow{AB}$  を考えることができます. このベクトル  $\overrightarrow{AB}$  を、右図のように、線分  $AB$  に点  $A$  から点  $B$  への“向き”を付けて表現します. このような向き付けられた線分を有向線分といいます. 点  $A$  から点  $B$  への有向線分において、点  $A$  を始点といい、点  $B$  を終点といいます.



**例題** 3次元座標空間の点  $A = (8, -1, -2)$  と  $B = (5, 7, -6)$  とに対して3次元実ベクトル  $\overrightarrow{AB}$  を求める.

点  $A$  の位置ベクトルは  $(8, -1, -2)$  で点  $B$  の位置ベクトルは  $(5, 7, -6)$  なので、

$$\overrightarrow{AB} = (5, 7, -6) - (8, -1, -2) = (5-8, 7-(-1), -6-(-2)) = (-3, 8, -4) . \quad \text{終}$$

**問題 2.5** 3次元座標空間の点  $P = (7, 3, -2)$  と  $Q = (9, -5, 4)$  とに対して3次元実ベクトル  $\overrightarrow{PQ}$  を求めなさい.

**定理 2.5.2** 3次元座標空間  $\mathbf{R}^3$  の原点を  $O$  とおくと、この座標空間の任意の点  $A$  に対して3次元実ベクトル  $\overrightarrow{OA}$  は  $A$  の位置ベクトルである.

**証明** 点  $O$  は原点なので  $O = (0, 0, 0)$  , 従って点  $O$  の位置ベクトルは  $(0, 0, 0)$  つまり零ベクトル  $\mathbf{0}$  である. 点  $A$  の位置ベクトルを  $\mathbf{a}$  とおくと、

$$\overrightarrow{OA} = \mathbf{a} - \mathbf{0} = \mathbf{a} .$$

従ってベクトル  $\overrightarrow{OA}$  は点  $A$  の位置ベクトルである. (証明終り)

**定理 2.5.3** 3次元座標空間  $\mathbf{R}^3$  の任意の点  $A$  について  $\overrightarrow{AA} = \mathbf{0}$  . 3次元座標空間  $\mathbf{R}^3$  の任意の点  $A, B$  について、 $\overrightarrow{AB} = \mathbf{0}$  ならば  $A = B$  .

**証明** 3次元座標空間  $\mathbf{R}^3$  の点  $A$  の位置ベクトルを  $\mathbf{a}$  とおき点  $B$  の位置ベクトルを  $\mathbf{b}$  とおく.  $\overrightarrow{AA} = \mathbf{a} - \mathbf{a} = \mathbf{0}$  .  $\overrightarrow{AB} = \mathbf{0}$  ならば、 $\mathbf{b} - \mathbf{a} = \overrightarrow{AB} = \mathbf{0}$  なので  $\mathbf{a} = \mathbf{b}$  , よって定理 2.5.1 より  $A = B$  . (証明終り)

**定理 2.5.4** 3次元座標空間  $\mathbf{R}^3$  の任意の点  $A, B, C$  について、

$$\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BC} = \overrightarrow{AC} , \quad \overrightarrow{AC} - \overrightarrow{AB} = \overrightarrow{BC} .$$

**証明** 3次元座標空間  $\mathbf{R}^3$  の点  $A, B, C$  の各々の位置ベクトルを  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  とおく.  $\overrightarrow{AB} = \mathbf{b} - \mathbf{a}$  ,  $\overrightarrow{BC} = \mathbf{c} - \mathbf{b}$  ,  $\overrightarrow{AC} = \mathbf{c} - \mathbf{a}$  なので、

$$\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BC} = (\mathbf{b} - \mathbf{a}) + (\mathbf{c} - \mathbf{b}) = \mathbf{b} - \mathbf{a} + \mathbf{c} - \mathbf{b} = \mathbf{c} - \mathbf{a} = \overrightarrow{AC} .$$

更にこの等式より  $\overrightarrow{BC} = \overrightarrow{AC} - \overrightarrow{AB}$  . (証明終り)

3次元座標空間  $\mathbf{R}^3$  の点  $P, Q, R$  について、3次元実ベクトル  $\mathbf{a} = \overrightarrow{PQ}$  と  $\mathbf{b} = \overrightarrow{QR}$  との和  $\mathbf{a} + \mathbf{b}$  を図示します. 定理 2.5.4 より、

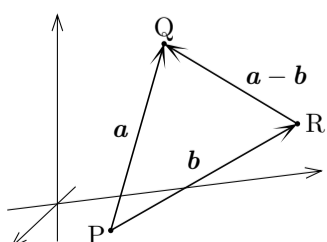
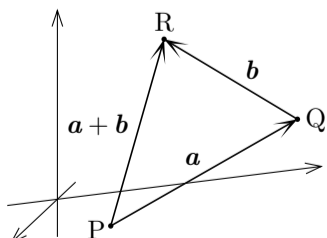
$$\mathbf{a} + \mathbf{b} = \overrightarrow{PQ} + \overrightarrow{QR} = \overrightarrow{PR} .$$

例えば右図のようになります.

また、3次元座標空間  $\mathbf{R}^3$  の点  $P, Q, R$  について、3次元実ベクトル  $\mathbf{a} = \overrightarrow{PQ}$  と  $\mathbf{b} = \overrightarrow{PR}$  との差  $\mathbf{a} - \mathbf{b}$  を図示します. 定理 2.5.4 より、

$$\mathbf{a} - \mathbf{b} = \overrightarrow{PQ} - \overrightarrow{PR} = \overrightarrow{RQ} .$$

例えば右図のようになります.



**定理 2.5.5** 3次元座標空間  $\mathbf{R}^3$  の任意の点  $A$  と  $B$  とについて  $\overrightarrow{BA} = -\overrightarrow{AB}$  .

**証明** 定理 2.5.4 と定理 2.5.3 より  $\overrightarrow{BA} + \overrightarrow{AB} = \overrightarrow{BB} = \mathbf{0}$  . 従って  $\overrightarrow{BA} = \mathbf{0} - \overrightarrow{AB} = -\overrightarrow{AB}$  . (証明終り)